

ほほえみ



←人権教育係の
ホームページで
もっと詳しく！

第59号(令和2年7月)
発行：小山市教育委員会



おやまっ子いじめゼロスローガン

今年度は、「いじめゼロ子どもサミット」の開催方法を変更し、いじめを防ぐスローガン作成、またはそれに代わる活動に取り組んでいただきました。作成していただいたスローガンや活動の内容から、皆さんがそれぞれの視点でいじめについて真剣に考えた様子が伝わってきました。御協力ありがとうございました。ここでは、テーマ別にスローガンを紹介させていただきます。他にも素晴らしいスローガンがありましたので、人権教育係のホームページでぜひ御覧ください。

【いじめ・ネットいじめについて】

わる気はない そんなことばで にげないで

【作者の思い】冗談のつもりで言った言葉が人を傷つけてしまうことがある。言われて嫌なことがなぜ嫌なのかを考えられるようにしよう。

気をつけて 正しいつもりが きずつける

【作者の思い】自分が正しいと思っていたことが、周りの人を傷付けることもあるから。

いつも何気なく使っている言葉が、相手にどんな影響を与えるのか、考えさせられるスローガンです。特に、お互いの表情が見えないネット上では、その言葉がどう伝わるかわからない「怖さ」もあります。ネットのコミュニケーションだけに偏らない人間関係作りが必要ですね。

まずは、大人がお手本に。家族みんなでルールを決めて守りましょう。

ルール作りのヒント

- ① 「いつまでに」「どのぐらい」、子どもにわかりやすいものにしましょう。
- ② 作ったルールをちゃんと守れるか、お試し期間を設け、守れたらほめてあげましょう。
- ③ ルールを守れないときは、ゲーム機を預かるなどのルールを設け、ルールを守る習慣をつけさせましょう。ルールがあまり守れないときや、子どもの成長に応じて、ルールを見直しましょう。
(内閣府作成リーフレット「スマホ時代の子育て～悩める保護者のためのQ&A～」より)



『第42回 人権講演会のお知らせ』

■日時：令和3年2月4日(木) 12:30 開場予定

■場所：小山市立文化センター 小ホール

■内容：子どものSNS事情・ひきこもりなど

なお、今後の状況により、開催が中止される場合は、人権教育係のホームページでお知らせいたします。

【新型コロナウイルス感染による差別や偏見について】

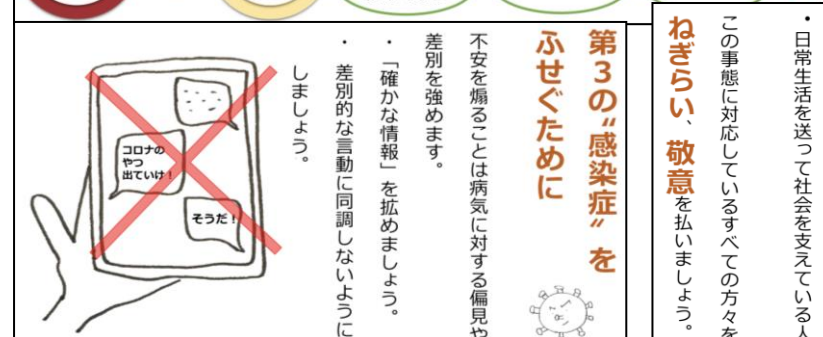
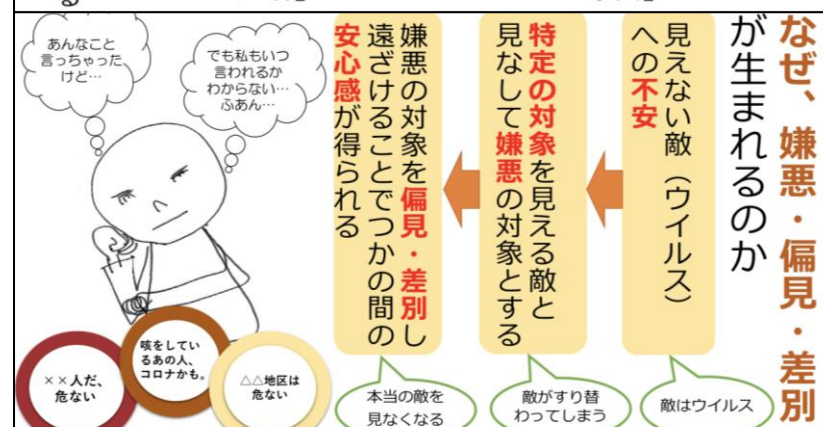
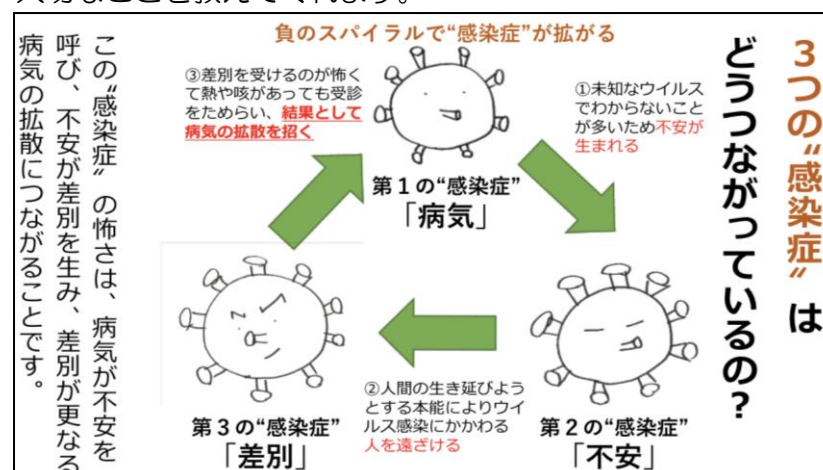
広げよう うわさじゃなくて 思いやり

【作者の思い】うわさが広がると、人を傷つけてしまうので、思いやりの気持ちをもって接したい。

必要だよな 正しい知識 必要だよな 強い心

【作者の思い】不確かな情報で、相手を傷つけてしまうことがあります。うわさ話に流されてしまうこともあります。必要なのは正しい知識と強い心です。

どちらのスローガンも、「うわさ」が人を傷つけてしまう可能性を考え、それを防ぐために大切なことを教えてください。



日本赤十字社では、「この感染症は、『病気』『不安』『差別』の“3つの顔”を持っており、これらが“負のスパイラル”としてつながることで、更なる感染の拡大につながっている」と説明しています。第三の感染症「差別」をしたくなる心の仕組みを理解して、スローガンのように冷静で思いやりのある行動を心がけましょう。

(日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～より一部抜粋して掲載しています。詳しくは、日本赤十字社または、人権教育係のHP【トップページ＞教育委員会＞人権教育】で、ぜひ、御覧下さい。)

第3の“感染症”をふせぐために

- みなさんそれぞれの場所で感染を拡大しないように頑張っています。
- 小さな子どもがいる家庭
- 高齢者
- 治療を受けている人とその家族
- 自宅待機している人
- 医療従事者
- 日常生活を送って社会を支えている人

この事態に対応しているすべての方々を、
ねがう、敬意を払いましょう。